

2. 学部および研究科の人材養成の目的と三つのポリシー

理学部

■人材養成の目的

理学部は、自然科学と数理科学に関する分野の探究を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、既知の事実と理論を学びながら、自然現象や数理を幅広い視野から理解し、論理力、分析力、創造力を修得し、総合的な視野から知識の活用ができ、豊かな人間性、社会性及び国際性を兼ね備えた活力ある人材を養成することを目的とする。

■アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

理学部は人材養成の目的を達成するために、

1. 高等学校段階で習得しておくべき基礎学力を身につけている人
2. 数理や自然現象に興味・関心を持っている人
3. 幅広い教養、国際性、および専門分野についての高い能力を身につける意欲を持つ人の入学を求めています。

■カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人材養成の目的を達成するために、理学部では次のカリキュラムを編成しています。

1. 1、2年次には、初年次教育、少人数クラスの講義、実習や演習およびゼミナール等によって自然科学全般にわたる基礎学力と思考力を養い、また共通教育によって幅広い教養、国際性および社会性を身につけることができるカリキュラム
2. 3、4年次には、この基礎学力に加えて、多様な専門分野から学生自ら選択した分野について学び、自然現象等を幅広い視野から理解し、現象を解明する力を習得できるカリキュラム

■ディプロマポリシー（学位授与の方針）

理学部の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. 自然や数理の諸現象に対する理解とその応用に必要な論理力・分析力・創造力を備えている。
2. 豊かな人間性、社会性および国際性を身につけている。

理学研究科

■人材養成および教育研究上の目的

理学研究科は、自然科学に関する研究を通して自然と調和した社会の健全な発展に貢献するという理念のもとに、自然科学に関する総合的で深い学識を持ち自立して研究活動を行い得る高度な研究能力を持つ人材及びこれらの学術的素養を活かして社会で活躍できる能力のある専門職業人を育成することを目的とする。博士課程前期では、専門分野に関する学識を養い、それを応用する能力、それに基づいた研究能力を体得させる教育を行う。博士課程後期では、前期課程の教育をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な研究能力を備えた人材の育成を図る。

■ディプロマポリシー（学位授与の方針）

理学研究科では、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士(理学)あるいは博士(理学)の学位を授与する。

博士課程前期では、広い視野に立って深い学識を修め、専門分野についての研究能力又は専門分野に関わる職業に従事するに必要な能力、技能、論理的思考、態度・志向性を有することを判断基準とする。修了に必要な授業科目の単位の取得に加えて、修士論文を提出させ、審査を行う。

博士課程後期では、研究成果が新たな知見を含み、研究者として自立して研究活動を行い得る能力又は自然科学・数理科学に関わる専門的な職業に従事するに必要な卓越した研究能力、獨創性、研究立案能力、倫理観を有することを判断基準とする。博士（理学）の学位授与には査読付き学術誌に一定基準数以上の論文が掲載されていることを基本要件としている。修了に必要な授業科目の単位の取得に加えて、博士論文を提出させ、審査を行う。

■カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

理学研究科では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。

博士課程前期では、「講究」・「実験」等の授業科目を通じて専門分野に関する学識や自然科学研究の手法と論理的思考方法を修得できるようなカリキュラムを構成している。さらに専攻ごとに配置した多くの選択科目は、専攻内の他専攻だけでなく他専攻からも受講できるようになっており、専門にこだわらない幅広い知識を修得できるようにしている。これらのカリキュラムにより、主体的・積極的な態度や志向性を修得することと同時に、研究に取り組む真摯な姿勢を養い、社会に貢献しようとする態度を身に付けることができる。

博士課程後期では、前期課程の教育・研究をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な能力を備えた人材の育成を図る。このため、学生の学位取得に向けた自主的な研究推進と指導教員のもとでのゼミナールを重視し、加えて自然科学・数理科学に関する深い学識を身につけることができるよう、専門的な特修科目を設置している。

■アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

理学研究科では、上記の二つのポリシーを踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。

博士課程前期では、一定水準以上の学力があって、かつ自然や数理の諸現象に興味があり、問題解決に向けて積極的に取り組む人材を受け入れる。一般入試では、試験による学力評価と面接評価を組み合わせ、優秀な学生を選抜する。特に成績優秀な学部学生には、3年次で飛び級制度、4年次では推薦入学制度を設けている。自然科学全般に関する広い見識の重要性から、他大学・他学部の学生や社会人・外国人留学生も積極的に受け入れる。

博士課程後期では、自然現象や数理の解明に強い意欲を持ち、探求心と目標とする研究を遂行するための能力のある人材を受け入れる。社会における諸問題解決に向けて意欲のある社会人・外国人留学生も受け入れる。修士論文の内容の精査と面接審査等によって、探求心と目標とする研究を遂行するための能力の有無を見極め、かつ、問題解決に向けて意欲的に取り組む姿勢を評価する。

福岡大学以外からの志願者については、学力試験も実施する。